頃日流行

染の井の説

摂津国呉織郡の染殿井といへる井は古呉服宮織の二女吾朝より来り始て綿を織り折り糸を染る故なりのよし又大和なる當麻の寺の染の井と称するものゝ中将姫是陀羅尼菩薩の絲を染させ給ひし旧地とぞ見いひ伝へ世に知る人少なし呉人は小僧ある故なり

于旃今年天保十二辛丑歳九月中旬より播州東成郡四天王寺東大阪村といへる立花氏の侍臣猪飼野産湯の宮又は今宮菜白山の傍なる田畑の井戸の水にて種々の色染

とそ此方は呉人白糸とひとし又は白布小切とうけ藍まそめ染黄まそめ或は爰色濃紫色等ゑ染

黄〻く波立ることを寅孫に事ども多く夫れは紫化の染色者は徳川氏の時代幕年ある則は酢紫出と云伝ふされば井水は自然よ

種〻の色を染るの二義氏と称はせのふ天地の山魚けひ〻は紅なる若ゞ代は御恵〻作ぐべし

○凡染色の種〻小かるるは下ぞめ染は志ぞ

○濃うすきの差別あるべしそ

其下染の○五倍子○石榴皮○桃皮○梔子○薑草

あくましい○櫟木○淡竹皮○いぶきもも皮汁にてそむ

○又小豆の煮汁・青菜の煮汁なるもよし

濃さうすれば色や対面の染の井より紅葉ヶ岡

うつる踊りせ乃まゝ　美濃理家山守蔵版

書林兼草紙屋　大坂谷町　鹽屋喜兵衛板

頃日流行　染の井の説　文庫10-8063-21
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library